



平和について考え発信する場として地域・組合員・診療所の交流の場 第22回河西平和夏まつり



8月3日(土)17:30~20:00に開催された「河西平和夏まつり」は、平和について考え、発信する場として、また、診療所と、組合員、地域のみなさんとの交流の場として、今年で22回目を迎えます。組合員さんや職員、地域友好団体の手作りの出店(焼きそば、おでん、かき氷、フランクフルト、シフォンケーキなどなど)、きのかわふるさと村の野菜・果物・花。子ども対象に「輪投げ」や「スーパーボールすくい」。デイサービス室では、戦争パネルの展示と署名コーナーの奥で森教二氏による子供対象の「マジックショー」。駐車場では、職員バンドの演奏を皮切りに、木津所長より開会の挨拶、組合員さんといっしょに盆踊り、職員のよさこい踊りの披露、ラストはビンゴゲームで大いに盛り上がりました。準備の遅れ、紀州踊りと同日開催の影響もあったか、今年の参加者は約150名と例年よりかなり参加者が少ないように感じましたが、組合員・職員の協力で、無事終えることができました。

原水爆禁止世界大会・長崎大会に行ってきました

8/7~9原水禁世界大会・長崎に医療生協から組合員1名、職員6名が県原水協の代表として参加しました。下記の文章は、本部事務局の吉田さんの手記です。

私は長崎で行われた原水爆禁止世界大会へ行って来ました。原爆が投下された地に行くのも、実際に被爆した方の話を聞くのも初めてだったので、とても衝撃的でした。まず、原爆資料館では被災直後の悲惨さを目の当たりにしました。そして、被爆者を苦しめたのは、原爆の熱線・爆風・放射線の他に被爆者差別や国の被爆認定却下などがあったことを知りました。その話を聞いた時に見せて頂いた原爆の熱線による火傷の跡は、一生忘れられないと思います。今まで私は「平和がいい」と思っていたのですが、具体的に何をすればいいのかわかりませんでした。もう2度とこのような惨劇を起こさないために私たちができることは、被爆体験を聞いて悲惨さを理解し、語り継いでいくことが第1歩なのだと思いました。(医療生協本部 吉田知史)



医療福祉生協通信教育200名超えました

2013 医療生協通信教育受講者数速報

8月8日現在		8/15までで切延長!			
東・中地区	病院・附属	子ども	支援センター	協同	生協中之島
組合員	職員	職員	職員	職員	職員
35	49	1			9
	27	7		17	13
組合員	職員	職員	職員	職員	職員
19	8	5	5	1	7

組合員	職員	合計
104	99	203

※産婦科コースなども含んでいます



8/24(土)に開催される東・中地区平和夏まつりの手づくりポスター、7職場から9作品寄せられました。増し刷りラミネートとして地域に貼り出します。